

令和5年 新年ご挨拶 三河本苑長 加藤三樹

【令和5年 三河本苑の活動スローガン】

宣教を経糸に人類愛善活動を緯糸に綾を成して、  
みろくの世の布を織っていきましょう



三河本苑の皆様、明けましておめでとうございます。昨年をどのように省み、どのような希望を持たれて、新しい年をお迎えになられましたでしょうか。

昨年、みろく大祭で教主さまは、「不確かなニュースや危機を煽る情報が氾濫し、多くの人々が混乱し不安を抱いている今こそ、大本の教えを堂々と胸を張って宣べ伝えるべき時です。そのために大本の尊いみ教えを、今一度初心に戻って真剣に学び、正しく理解して腹に入れ実践することで、まず周囲の人に信頼される人になることが大切です。大本は型を出すところです。一人ひとりの行いがますます重要になってきます」と、改めて、み教えを①学び ②実践し ③伝えることの大切さをお示しになりました。

本年、大本は「激動の五六七（みろく）の三年間」の初年度を迎えました。人類愛善会は「人類愛善活動の実践なくして、みろくの世への道筋は開けない」をスローガンに、次の3つを重点施策として取り組んでいきます。

- ①「食・農・環境」活動で、良いお土の型を出す
- ② 2030年「エルサレムでのエスペラントによる歌祭」を実現する  
その一歩として、本年9月大本エスペラント歌祭へ献詠歌を投稿する
- ③ できることから始めよう！「AIZEN100の実践」

以上の本部方針に沿い三河本苑は、教主さまのお示し「大本の教えを堂々と胸を張って宣べ伝える」の宣教を経糸に、「良いお土の型を出す食・農・環境」「エスペラント歌祭」「AIZEN100」の人類愛善活動を緯糸に綾を成して、みろくの世の布を織っていきましょう、をスローガンに諸活動を推進していきます。よろしく願いいたします。



# 三河本苑だより

1月号

2023・1 No.488

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL.0533-69-7518

FAX0533-69-1455

## お知らせ

### 「七草粥」中止のお知らせ

令和5年1月月次祭での七草粥は、コロナ感染予防の為に中止致します。

## 令和5年 節分大祭 地方祭員奉仕のお願い

【節分大祭】令和5年 2月3日(金)

※感染防止の目的で着座の間隔を広げるため、30人の地方祭員と考えています。

申込みは事務局までお早目に願います。 **祭務部**

- 1月1日(日) 1月の行事
- 1月5日(日) 本苑新年祭 午前十一時
- 1月15日(日) 本苑1月月次祭 成人式
- 2月19日(日) 本苑2月月次祭

三河本苑公式LINE



↑ コチラから本苑だより更新中

探索シリーズ① 尊師さま歌碑のお歌の最後の文字と意味

刈谷分所 加藤 三樹

【文字】

「遅」(運)

【文字の意味】

昭和9年上海で行われた台湾道院の壇訓で尊師さまは道名「遅」を賜り、歌碑のお歌を詠まれた竹田時代に、「遅」の「遅」を歌号、俳号として使われていた。



「遅」の意味は「自らの霊を世界中に運(めぐらし、あらゆる霊を天国へ運び上げる)」で、尊師さまのお働きを示されたもの。

三河本苑のお宝をご紹介します

米津支部 横井 一男

新神の家が完成し、今までは万松館庭に建立され拜見する機会が少なかった様ですが、今後は、玄關前に移されまして目にする機会が多くなり、大変に有り難い事と思っております。

不動の信に吾奮ひ起つ

令和四年「みろくのよ」十月号二十九頁を参照 昭和四十九年建立

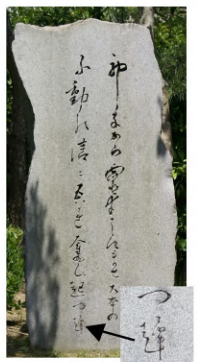
今回、この歌碑を拝し質問がありました。

お歌の最後の次一文字あるのが何という字か？意味を教

えてほしいとのことでした。

私の家に昔から古い尊師様の色紙が有り、最後の一文字と思われる「遅」のご染筆がされており、昔、本部の先生にお聞きした所、尊師さまの花押のようない文字にて一般的にご染筆には無く、色紙等、日出磨の朱印が押されて有りますが無い色紙も有ります。

「遅」は特に大切なご染筆にあることとお聞きしました。意味をお聞きしました所、私(尊師様)が橋渡しをしてやるとの意味であろうと教えて頂きました。



私の思い

三河一色分所 三矢 直

一色分所の皆様のおかげで雌松を育て5年が経過

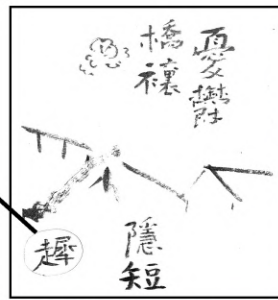
5年前、分所の役員松井雅隆様のご厚意により約150坪の土地を提供していただき、大人の身長ほどの雌松30本が約5年を経過し約3メートル以上に伸びました。誠心会、直心会、青松会員で雌松の剪定、害虫駆除、敷地の整備、草引きやご神水を散布したりしております。

松の採取が全国的に難しくなる中、分所の月次祭等の玉串として奉奠させて頂いておりますが、昨年の葬祭時には100本以上を玉串として採取させて頂いております。葬祭時にはすぐに雌松が必要となりますので大変役立っております。今後はさらに土地の提供を頂ける方を募り雌松採取場所の拡大を行っていく予定です。



「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

た。色紙を見ますと色々な文字が有りますが、どれも暗く悲しいような文字が有り左に橋らしき絵が有り、その最後に「遅」の文字が有ります。私が思いますに、今の悪の世からみろくの世へ橋渡しをして下さるという事と信じています。



「遅」(運) 尊師様色紙(横井所蔵)

尊師様は本来「神恩法 日出磨」の様に力強い大きな文字をご染筆されていましたが、大本事件後出所された後、聖師様から何度も後継を依頼され「わかりました」とご返事され神仙の世界へ入られてから其の後文字が一変されました。◎色紙をご覧に成りたい方はお申し出ください。コピーを差し上げます。

「おほもと(特集)」出口日出磨先生読本より 霊異寸滴 昭和三十一年十二月

日出磨先生のご日常は、霊眼靈耳にはじまる六大神通力を縦横に活動されておこる神異に溢れているが、これはその寸滴を記録したものである。

病弱の少女への救い

病弱を一たん身中にひきとられて

昭和23年ごろ、愛知県信者〇〇氏の令嬢〇〇さんが奉仕していた。生来病弱であったが、当時、肋膜(ろくまく)になる一歩手前で、その上、心臓脚気気味でもあり、亀岡の浅井医師から安静を命ぜられていた。

同女は父の勧めで竹田に参拝して日出磨先生にお目にかかった。十数名の面会者が同席していた。

その席で多くの面会者をおいて、同女の前に来られて、痰を吐れた。黒い痰であった。ところが不思議なことに、先生が痰を吐れた時から、同女の気分は良くなり、顔色も目に見えて良くなって来た。

その後〇〇町に帰宅し、同地の信者で医学博士の〇〇氏に診察をこうて、「どこも悪いところは無く、治療の耀要(ようよう)なし」とのことであった。

連載 大本こぼれ話